

## 第 8 節 外 国 語

### 第 1 外国語科の基本的事項

#### 1 改訂の趣旨

平成 30 年 3 月に改訂された高等学校学習指導要領においては、中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）に沿って、これまでの成果と課題等を踏まえた改善が図られた。今回の外国語科に係る埼玉県高等学校教育課程編成要領は、こうした改善の趣旨を踏まえて改訂を行ったものである。

外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として、特に、他者とのコミュニケーションの基盤を形成する視点を重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理した。このため、外国語の目標として、外国語教育の特質に応じた「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るために必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を更に育成することを目指して改善を図った。併せて、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、中学校での学びとの接続を意識しながら外国語科の目標を設定した。

このような目標の下に、統合的な言語活動を通して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目と、「話すこと」と「書くこと」による発信力の育成を強化する科目をそれぞれ新設し、併せて、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることとした。

#### 2 改訂の要点

中央教育審議会答申を踏まえ、目標及び内容等に関して、次のような改善を図った。

##### (1) 目標の改善

外国語科の目標は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から改善・充実を図っている。

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通して、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、繰り返し思考・判断・表現することを通して獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

このため、それらの育成を目指す力について、外国語学習の特性を踏まえて「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」に示す資質・能力を育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして国際的な基準である CEFR を参考に、五つの領域で英語の目標を設定している。

今回の改訂では、小学校中学年に新たに外国語活動を導入し、三つの資質・能力の下で、英語の目標を「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の領域において設定し、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成した上で、高学年において「読むこと」、「書くこと」を加えた教科として外国語を導入し、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。中学校及び高等学校では、こうした小学校での学びを踏まえ、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしている。

##### (2) 科目の改善

外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を確実に身に付けられるように、小・中・高等学校を通じた領域別の目標の下で、内容等について以下のとおり体系的に構成を整理した。

外国語科の目標及び英語に関する各科目の目標を実現するため、「知識及び技能」として「英語の特徴やきまりに関する事項」「思考力、判断力、表現力等」として「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」を整理した上で、「言語活動及び言語の働きに関する事項」として、「知識及び技能」を活用して「思考力、判断力、表現力等」を身に付けるための具体的な言語活動、言語の働き等を整理した。また、「内容の取扱い」においては、中学校における学習の学び直しや、中学校における指導との接続に留意しながら指導すべき留意点等を整理し、具体的な指導や評価において活用されるよう内容の構成全体を改善した。

各科目の構成については、五つの領域を統合的な言語活動を通して総合的に指導するとともに、中学校における学習内容の確実な定着と更なる発信力の強化を図る観点から、科目の構成を改善し、中学校における学習を踏まえた上で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する必修科目として「英語コミュニケーションⅠ」を設定し、更なる総合的な英語力の向上を図るための選択科目として「英語コミュニケーションⅡ」及び「英語コミュニケーションⅢ」を設定した。また、「話すこと」、「書くこと」を中心とした発信力の強化を図るため、統合的な言語活動、特にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを扱う選択科目として「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」を設定した。

各学校においては、このような内容や科目の構成を理解し、言語材料と言語活動、言語の働き等を効果的に関連付け、総合的に組み合わせる指導するとともに、この構成の中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するため、学習過程を繰り返し経るような指導の改善・充実が図られる必要がある。

### 3 外国語科の目標及び科目編成

#### (1) 外国語科の目標

高等学校学習指導要領では、外国語科の目標は次のように示されている。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

このためには、次の(1)(2)(3)に示す「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれに関わる外国語特有の資質・能力を育成する必要がある。その際、外国語教育の特質に応じて、生徒が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが重要である。

#### 「知識及び技能」の習得について

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目

的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

「生きて働く『知識・技能』の習得」を重視している。本目標での「(外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの)理解を深める」とは、新しい知識を確実に習得しながら、既存の知識や技能と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念としていくことである。また、「(聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に)活用できる技能を身に付ける」とは、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験やほかの技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくことである。

#### 「思考力、判断力、表現力等」の育成について

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

外国語教育における学習過程として、以下①～④のような流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切になる。

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

#### 「学びに向かう力、人間性等」の涵養について

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語教育における「学びに向かう力、人間性等」は、生徒が言語活動に主体的・自律的に取り組むことが外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、生徒に自信が生まれ、主体的・自律的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」は不可分に結び付いている。生徒が興味を持って取り組める言語活動を段階的に取り入れたり、自己表現活動を工夫したりするなど、様々な手立てを通して生徒の主体的・自律的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切である。

## (2) 科目の編成と履修

科 目	標準単位数
英語コミュニケーションⅠ	3
英語コミュニケーションⅡ	4
英語コミュニケーションⅢ	4
論理・表現Ⅰ	2
論理・表現Ⅱ	2
論理・表現Ⅲ	2

・「英語コミュニケーションⅠ」を、全ての生徒に履修させる。なお、英語以外の外国語を履修させる場合は、学校設定科目として設ける1科目とし、標準単位数は3単位とする。ただし、単位数は、「英語コミュニケーションⅠ」についても、英語以外の外国語についても、生徒の実態及び専門学科の特色等を考慮し、特に必要がある場合には2単位とすることができる。

・「英語コミュニケーションⅡ」は、「英語コミュニケーションⅠ」を履修した後に、「英語コミュニケーションⅢ」は、「英語コミュニケーションⅡ」を履修した後にそれぞれ選択履修させる。

・「論理・表現Ⅱ」は、「論理・表現Ⅰ」を履修した後に、「論理・表現Ⅲ」は、「論理・表現Ⅱ」を履修した後にそれぞれ選択履修させる。

## 第2 各科目の概要

### 1 総論

#### ・各科目の特徴

「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「英語コミュニケーションⅢ」（以

下「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」という。）は、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する科目である。その際、これらの言語活動と、言語活動を行うために必要となる言語材料とを効果的に関連付けながら指導していくことが重要である。

「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」（以下「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」という。）は、三つの領域（「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、及び「書くこと」）を中心に、目的や場面、状況に応じた論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現などの知識を活用しながら、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを通して、英語を話したり、書いたりすることによる発信力を高めることを目指す科目である。

#### ・話題について

高等学校ではどの科目においても「日常的な話題」及び「社会的な話題」を扱う。日常的な話題とは、生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などに関わるものであり、中学校で扱った話題に、高校生の生活範囲の広がりに応じた話題を加えたものである。社会的な話題とは、広く国内外で起こっている事象など社会で起こっている出来事や問題に関わるものであるが、日常的な話題と同様に、生徒の発達の段階や習熟の状況などに応じて、高校生にとって興味・関心のある話題を取り上げながら、徐々に、時事的な話題や学術的な話題で、より抽象度が高い内容や詳細で具体的な情報などを扱っていくことが考えられる。

#### ・支援について

各科目では、領域別の目標及び言語活動それぞれにおける支援について明記している。これは、生徒自身が支援を活用することにより、各領域に設定した目標を実現できることが重要であることによる。また、言語活動においては、生徒が英語を理解したり英語で発信したりする状況を教師が把握しながら、課題の遂行に当たってどの程度自分の力で対処できるか、どのような支援があれば課題を遂行できるかなどを考慮し、生徒に学習上の様々な配慮を行うことが必要であることなどによる。

言語活動を行う際の支援には、例えば、①話す速度を落としたり、一度にたくさんの情報を伝えるのではなく分けて伝えたりする（「聞くこと」）、②理解が難しい語彙や表現が含まれている場合に簡単なものに書き換える（「読むこと」）、③対話の例を示すため

教師が実際のやり取りを見せる（「話すこと〔やりとり〕」）、④発表の事前準備として、グループで話し合わせたり、アウトラインを書かせたりする（「話すこと〔発表〕」）、⑤書く活動を行うに当たって有用な語彙や表現を示す（「書くこと」）など様々なものがある。また支援は、生徒の学習過程のあらゆる段階で与えることが可能であり、生徒の実態や学習過程における必要性に応じて柔軟に工夫することが求められる。

また、それぞれの科目では支援の程度についても規定している。これは、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において、科目の段階がⅠからⅢへと上がるにつれて、生徒が、より少ない支援で自律的に、言語活動における課題を遂行する力が育成できるようにするためである。具体的には、「英語コミュニケーションⅠ」及び「論理・表現Ⅰ」では「多くの支援を活用すれば」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅱ」では「一定の支援を活用すれば」、「英語コミュニケーションⅢ」及び「論理・表現Ⅲ」では「支援をほとんど活用しなくても」といったように、段階的に、生徒が自律的な学習者となるよう支援の程度を調整する必要があることを示している。

#### ・使用する語句や文について

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」及び「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」における「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」においては、それぞれの言語活動を行う際に生徒が用いる語句や文について規定している。

「英語コミュニケーションⅠ」及び「論理・表現Ⅰ」では、中学校における学習の中で触れてきた「簡単な語句や文」も含め、両科目で学習する語彙や表現を用いて言語活動を行うことから「基本的な語句や文を用いて」とした。「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅱ」では、それまでに学習した語彙や表現などを活用して、より詳細な説明をすることが求められることから、「多様な語句や文を用いて」とした。「英語コミュニケーションⅢ」及び「論理・表現Ⅲ」では、それまでに学習した語彙や表現を、より効果的に用いる必要があることから「多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて」とした。

#### ・言語活動について

高等学校の外国語科の目標では、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の言語活動とこれらを結び付けた言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること

を示している。

実際の授業においては、指導の過程において生徒が複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行えるようにすることが必要である。

## 2 各科目の目標と内容

### 英語コミュニケーションⅠ

#### (1) 性格及び目標

中学校における英語学習との接続に留意しながら、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な指導を行う科目である。特に、聞いたり読んだりしたことの概要や要点を目的に応じて捉えたり、基本的な語句や文を使って情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことができることを目標としている。特徴としては、多くの支援を活用する、話し手や書き手の意図を把握するために必要な情報に焦点を絞って理解する、即興で会話を継続する力を育成することなどが挙げられる。

#### ア 聞くこと

(7) 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

(1) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### イ 読むこと

(7) 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

(1) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### ウ 話すこと〔やり取り〕

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(1) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意

して話して伝え合うことができるようにする。

#### エ 話すこと〔発表〕

(7) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

#### オ 書くこと

(7) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

#### (2) 内容

#### ○ 英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

実際に英語を用いた言語活動を通して、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。ここでは言語材料を次の4つに分けて整理している。

#### ア 音声について

#### イ 句読法について

#### ウ 語、連語及び慣用表現について

取り扱う語については、小・中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語とする。

#### エ 文構造及び文法事項について

##### 【文構造のうち活用頻度の高いもの】

a [主語+動詞+補語]のうち、

(a) 主語+be 動詞以外の動詞+分詞

例1 The cows came running toward us.

例2 Naomi looked surprised to see me.

b [主語+動詞+目的語]のうち、

(a) 主語+動詞+if で始まる節

例 I wonder if the place is open today.

c [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち、

(a) 主語+動詞+間接目的語+if で始まる節

例 I asked her if she was free.

d [主語+動詞+目的語+補語]のうち、

(a) 主語+動詞+目的語+分詞

例 I saw two men carrying a piano.

e その他

(a) 主語+seem など+to 不定詞

例 John seems to know a lot about movies.

(b) It+seem など+that で始まる節

例 It seems that many of us are afraid of change.

#### <参考>

「小学校学習指導要領解説 外国語編」に示されている文構造

a [主語+動詞]

・ I sometimes get up at 6:00.

b [主語+be 動詞+名詞/代名詞/形容詞]

・ It was fun. (形容詞)

c [主語+動詞+目的語]のうち、

(a) 主語+動詞+名詞

・ I usually wash the dishes.

(b) 主語+動詞+代名詞

・ I like baseball. I play it after school.

(c) 主語+動詞+動名詞

・ I like playing the piano.

「中学校学習指導要領解説 外国語編」に示されている文構造

a [主語+be 動詞以外の動詞+名詞/形容詞]

・ Tsuyoshi felt happy when a lot of people came to his concert. (形容詞)

b [主語+動詞+目的語]のうち、

(a) 主語+動詞+動名詞/to 不定詞/how (など) to 不定詞

・ He tried to do his best. (to 不定詞)

(b) 主語+動詞+that で始まる節/whatなどで始まる節

・ We didn't know that she was ill. (that で始まる節)

c [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち、

(a) 主語+動詞+間接目的語+名詞/代名詞

・ The teacher told us an interesting story. (名詞)

(b) 主語+動詞+間接目的語+how (など) to 不定詞

・ I showed him how to send e-mail.

(c) 主語+動詞+間接目的語+that で始まる節/whatなどで始まる節

・ Can I tell her where you live? (whatなどで始まる節)

d [主語+動詞+目的語+補語]のうち、

(a) 主語+動詞+目的語+名詞/形容詞

・ We call him Toshi. (名詞)

(b) 主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞

- ・ I helped my father wash the car.

e その他

(a) There＋be 動詞＋～

- ・ There is an old tree in front of my house.

(b) It＋be 動詞＋～（＋for～）＋to 不定詞

- ・ It is not easy for me to understand English.

(c) 主語＋tell, want など＋目的語＋to 不定詞

- ・ Our teacher told us to go out and enjoy the break.

(d) 主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節

- ・ I'm glad that you like it.

#### 【文法事項】

##### a 不定詞の用法

小学校で扱う不定詞は「to 不定詞」のうち名詞としての用法である。「小学校学習指導要領解説 外国語編」に示された例文を以下に示す。

- ・ I want to go to Italy.
- ・ I want to be a vet.

中学で扱う不定詞は、「to 不定詞」と「原形不定詞」である。「中学校学習指導要領解説 外国語編」に示された例文のうち、代表的なものを以下に示す。

- ・ I want to drink water. (名詞としての用法)
- ・ Hiroshi needed something to drink. (形容詞としての用法)
- ・ Takayuki went to the supermarket to buy some food. (副詞としての用法)
- ・ I helped my father wash the car. (原形不定詞としての用法)

高等学校では、小学校及び中学校において指導された用法を必要に応じて繰り返し扱いながら、その使い方の理解を深めたり別の場面や異なる表現の中で活用したりできるように指導する必要がある。高等学校では新たに知覚動詞と共に用いる原形不定詞を扱う。

##### b 関係代名詞の用法

中学校で扱う関係代名詞は、主格の **that, which, who** 及び目的格の **that, which** の制限用法である。

高等学校では新たに、先行詞をとらない関係代名詞 **what** や非制限用法などを指導する。

##### c 関係副詞の用法

関係副詞は、高等学校において初めて学習させるものである。関係副詞及びその先行詞は省略されることが多いことなどにも配慮して指導する。

##### d 接続詞の用法

中学校で扱うのは、**and, but, or** などの基本的な等位接続詞の用法と、**if, when** などの時や条件の副

詞節をつくる従属接続詞の基本的な用法である。高等学校では、中学校で扱った基本的な接続詞を発展的に扱い、例えば、伝える内容をより具体的に詳細に表現したり、理由や条件などを加えてより論理的に表現したりすることを指導する。中学校で学習したものを含めた様々な接続詞についても必要に応じて繰り返し扱いながら、それらの使い方について理解を深め、論理的に表現する際に活用できるように指導する。

##### e 助動詞の用法

小学校で扱う助動詞は、**can** の「能力」を表す用法である。中学校で扱う助動詞は、**can** の「許可」や「依頼」を表す用法である。その他に、**must, must not, may, should** など中学校で扱われる。

高等学校では、必要に応じて、助動詞の過去形、助動詞を含む受け身、助動詞と完了形を用いた過去に関する推測の表現なども扱う。ただし、用法を細かく分類したり網羅的に指導したりするのではなく、実際に活用しながら意味の違いを理解することができるようにする。

##### f 前置詞の用法

小学校において、**on, in, at** などについて慣れ親しんでいるが、中学校では、**I'm from** や **go to** などの定型句において使われる前置詞を扱っている。

高等学校では、時間・場所を表すためにより多くの種類の前置詞を使うほか、「名詞化した動詞＋前置詞 (**the cancellation of the concert** など) や、「前置詞＋動名詞や関係詞」などの多様な表現を用いることができるように指導することが望ましい。

また、「動詞＋前置詞」の形で、**get over, go through** などのように連語として動作や表現の多様性を広げるために、**in addition to, at least** などの、前置詞を含む様々な慣用表現を活用することも大切である。

##### g 動詞の時制及び相など

中学校で指導するものは、

- ・ 現在形、過去形
- ・ 現在進行形、過去進行形
- ・ 現在完了形
- ・ 現在完了進行形
- ・ 助動詞などを用いた未来表現

である。高等学校では、過去完了形、過去完了進行形を加えて指導する。

##### h 仮定法

今回の改訂により、中学校に新設の文法事項として仮定法が追加された。「中学校学習指導要領解説 外国語編」に示された例文のうち、代表的なものを

以下に示す。

・ If I were you, I would ask my best friend to help me.

・ I wish I knew my cat's feeling.

高等学校では、中学校において指導された基本的な仮定法を含め、五つの領域別の目標を達成するのに必要とされるものを精選して指導する。

### ○ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の3つの事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的话题や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること。

イ 日常的话题や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

ウ 日常的话题や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にしながら、英語で話したり書いたりして、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

### ○ 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### 【言語活動に関する事項】

ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち、中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(7) 日常的话题について、話される速さが調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(4) 社会的な話題について、話される速さが調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

ウ 読むこと

(7) 日常的话题について、基本的な語句や文での

言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(4) 社会的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(7) 身近な出来事や家庭生活などの日常的话题について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(7) 身近な出来事や家庭生活などの日常的话题について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 社会的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(7) 身近な出来事や家庭生活などの日常的话题について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や

根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

### 【言語の働きに関する事項】

言語活動を行うに当たり、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、五つの領域別の目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせ活用するようになる。

#### ア 言語の使用場面の例

##### (ア) 生徒の暮らしに関わる場面

- ・家庭での生活 ・学校での学習や活動
- ・地域での活動 ・職場での活動 など

##### (イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面

- ・本、新聞、雑誌などを読むこと
- ・テレビや映画、動画、ラジオなどを観たり、聞いたりすること
- ・情報通信ネットワークを活用すること など

##### (ウ) 特有の表現がよく使われる場面

- ・買物 ・食事 ・旅行 ・電話での対応
- ・手紙や電子メールのやり取り など

#### イ 言語の働きの例

##### (ア) コミュニケーションを円滑にする

- ・相づちを打つ ・聞き直す ・繰り返す
- ・言い換える ・話題を発展させる
- ・話題を変える など

##### (イ) 気持ちを伝える

- ・共感する ・褒める ・謝る ・感謝する
- ・望む ・驚く ・心配する など

##### (ウ) 事実・情報を伝える

- ・説明する ・報告する ・描写する
- ・理由を述べる ・要約する ・訂正する など

##### (エ) 考えや意図を伝える

- ・提案する ・申し出る ・賛成する ・反対する
- ・承諾する ・断る ・主張する ・推論する
- ・仮定する など

##### (オ) 相手の行動を促す

- ・質問する ・依頼する ・誘う ・許可する
- ・助言する ・命令する ・注意をひく ・説得する

など

### 英語コミュニケーションⅡ

#### (1) 性格及び目標

五つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な指導を発展的に行う。特徴としては、一定の支援を活用する、話や文章の展開や詳細を把握する、内容を順序立てて、例・理由・根拠などを具体的に述べる、論理展開における段落の役割を考えたりすることなどが挙げられる。

#### ア 聞くこと

(ア) 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### イ 読むこと

(ア) 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### ウ 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

#### エ 話すこと [発表]

(ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前



の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

#### オ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

#### (2) 内容

##### ○ 英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)と同様に取り扱うものとする。なお語数については「英語コミュニケーションⅠ」で学習した語に700～950語程度の新語を加えたものとする。

##### ○ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

##### ○ 言語活動及び言語の働きに関する事項

###### 【言語活動に関する事項】

ア 「英語コミュニケーションⅠ」に示す言語活動のうち、「英語コミュニケーションⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

#### イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

#### ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、論証文や報告文などから必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

#### エ 話すこと [やり取り]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

#### オ 話すこと [発表]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### カ 書くこと

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### 【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

### 英語コミュニケーションⅢ

#### (1) 性格及び目標

五つの領域別の言語活動や複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な指導を発展的に行い、主体的で自律した英語使用者の育成を目指す。特徴としては、支援をほとんど活用しない、伝え合う内容に広がりや深まりをもたせて会話を活性化する、論理の一貫性に注意したうえで適切な理由や根拠を示すことで説得力を高める、課題の解決策などを提示することなどが挙げられる。

#### ア 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### イ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### ウ 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

#### エ 話すこと [発表]

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

#### オ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

#### (2) 内容

○ 英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)と同様に取り扱うものとする。なお語数については、「英語コミュニケーションⅡ」で学習した語に700～950語程度の新語を加えたものとする。

○ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「英語コミュニケーションⅠ」の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

○ 言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、インタビューやニュースなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細をまとめる活動。また、まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させる活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを

聞いたり読んだりして、情報や考え、課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

論理・表現Ⅰ

(1) 性格及び目標

中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質や能力を踏まえ、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」及び「書くこと」の三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、発信力を強化する指導を行う。特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションや一つの段落の文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになることを目標としている。特徴としては、論理の構成や展開の仕方を学ぶ、

それぞれの言語活動の方法を理解する、多くの支援を活用する、自分の意見における論理に矛盾や飛躍がないか、理由や根拠がより適切なものとなっているか留意することなどが挙げられる。

#### ア 話すこと [やり取り]

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。

(4) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。

#### イ 話すこと [発表]

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

(4) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

#### ウ 書くこと

(7) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

(4) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

#### (2) 内容

#### ○ 英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

実際に英語を用いた言語活動を通して、三つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付

け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。ただし、語や文法事項については、三つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを適宜扱うものとする。

#### ア 論理の構成や展開及び表現などに関する事項

(7) 目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開  
(4) 情報や考えなどを効果的に伝える表現

#### ○ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的话题や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

イ 日常的话题や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

#### ○ 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### 【言語活動に関する事項】

#### ア 話すこと [やり取り]

(7) 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(4) 日常的话题や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、優れている点や改善すべき点を話して伝え合ったり、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合うディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

#### イ 話すこと [発表]

(7) 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切

な理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたたり読んだりした内容について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える短いスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### ウ 書くこと

- (ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### 【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

#### 論理・表現Ⅱ

##### (1) 性格及び目標

三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、発信力を強化するための指導を発展的に行う。特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションや複数の段落から成る文章を書くなど、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして詳しく伝える又は伝え合うことなどができるようになることを目標にしている。特徴としては、一定の支援を活用する、立場や状況が異なる相手と交渉する、課題の解決策などを想定して適切な理由や根拠とともに、論理の構成や展開に留意して詳しく表現することなどが挙げられる。

#### ア 話すこと [やり取り]

- (ア) 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。

- (イ) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

#### イ 話すこと [発表]

- (ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

- (イ) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

#### ウ 書くこと

- (ア) 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

- (イ) 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

##### (2) 内容

#### ○ 英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「論理・表現Ⅰ」と同様に取り扱うものとする。

#### ○ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「論理・表現Ⅰ」の示す事項について、三つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

#### ○ 言語活動及び言語の働きに関する事項

### 【言語活動に関する事項】

ア 「論理・表現Ⅰ」に示す言語活動のうち、「論理・表現Ⅰ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 話すこと [やり取り]

(7) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、自分自身の状況や要望を伝え、相手の意向を把握しながら交渉したりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(4) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、課題を明確に説明し、その解決策を提案し合ったり、意見や主張、課題の解決策などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

ウ 話すこと [発表]

(7) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝えるスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

エ 書くこと

(7) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用

いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(4) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

### 【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

### 論理・表現Ⅲ

(1) 性格及び目標

三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、発信力を強化するための指導を発展的に行う。特に、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションや複数の段落から成る文章を書くことなどを通して、聞き手や読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして詳しく伝える又は伝え合うことができるようになることを目標としており、生涯にわたる自律的な学習につながるよう、「一定の支援」を活用する段階から「支援をほとんど活用しない」段階へと移行する。特徴としては、支援をほとんど活用しない、海外のニュースや記事などの複数の資料を活用しながら自分の考えをまとめる、意見や主張、課題の解決策を聞き手や読み手を説得できるように論理の構成や展開に留意しながら提示することで一定の合意に至ることができるなどが挙げられる。

ア 話すこと [やり取り]

(7) 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。

(4) 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、

多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

#### イ 話すこと [発表]

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

#### ウ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

#### (2) 内容

##### ○ 英語の特徴やきまりに関する事項(知識及び技能)

「論理・表現Ⅰ」と同様に取り扱うものとする。

##### ○ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(思考力、判断力、表現力等)

「論理・表現Ⅰ」の示す事項について、三つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

##### ○ 言語活動及び言語の働きに関する事項

【言語活動に関する事項】

ア 「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容

の定着を図るために必要なもの。

#### イ 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、質疑応答をしたり、聞き手を説得することができるよう、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを、整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

#### ウ 話すこと [発表]

(ア) 日常的な話題について、聞き手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、段階的な手順を踏みながら、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### エ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、読み手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、読み手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

## 【言語の働きに関する事項】

「英語コミュニケーションⅠ」と同様に取り扱うものとする。

### 第3 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

#### 1 指導計画作成上の配慮事項

指導計画の作成に当たっては、小学校や中学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにするためには、埼玉県におけるこれまでの優れた教育実践の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善に取り組むことが大切である。特に、本県で平成22年から取り組んでいる協調学習は、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で有効な「学び」の一つである。

指導計画作成に当たっては、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図るよう配慮する。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に当たっては、「知識及び技能が習得されるようにすること」「思考力・判断力・表現力等を育成すること」「学びに向かう力、人間性等を涵養すること」が偏りなく実現されるよう、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通し、生徒の学びに有効な場面やタイミングを見極めながら、継続的に授業改善に取り組むことが重要である。例えば、既習事項を活用して各単元や題材などの理解を深めるために知識構成型ジグソー法による協調学習を実践することも考えられる。

- (2) 多様な生徒の実態に応じ、生徒の学習負担に配慮しながら、年次ごと及び科目ごとの目標を適切に定め、学校が定める卒業までの指導計画を通して十分に段階を踏みながら、外国語科の目標の実現を図るようにすること。
- (3) 実際に英語を使用して自分自身の考えを伝え合うなどの言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図

ること。

- (4) 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。
- (5) 言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること。
- (6) 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること。
- (7) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (8) 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブスピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

#### 2 内容の取扱いに当たっての配慮事項

内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、各科目の内容に示す言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。
- (2) 音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。
- (3) 文法事項の指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導を工夫すること。
- (4) 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。



- (5) 話すことや書くことの指導に当たっては、目的や場面、状況などに応じたやり取りや発表、文章などの具体例を示した上で、生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるよう留意すること。
- (6) 中学校で身に付けた使い方を基礎として、辞書を効果的に活用できるようにすること。
- (7) 生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成するため、ペアワーク、グループワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。
- (8) 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。
- (9) 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりして、主体的、自律的に学習することができるようにすること。

### 3 教材についての配慮事項

教材については、次の事項に留意するものとする。

- (1) 教材は、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、各科目の五つの領域別の目標と内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分に配慮した題材を取り上げること。その際、各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す文法事項などを中心とした構成とならないよう十分に留意し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定した上で、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すこと。
- (2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。
- ア 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判

断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

- イ 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。
- ウ 社会がグローバル化する中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- エ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。